

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 9 日現在

機関番号：37117

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370391

研究課題名(和文) ネルヴァルの文学作品生成過程において視覚芸術が果たした役割

研究課題名(英文) Role of Visual Art Works in Creating Nerval's Literary Works

研究代表者

間瀬 玲子 (MASE, REIKO)

筑紫女学園大学・文学部・教授

研究者番号：30219357

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：19世紀フランスの作家ネルヴァルの全文学作品における演劇、オペラ、見世物などの視覚芸術に関する記述の検証作業を行った。特にネルヴァルが雑誌や新聞に発表した劇評に注目した。またネルヴァルが自分の作品内で言及した視覚芸術の作品の台本及び研究書を検討した。その結果ネルヴァルが視覚芸術の諸作品を鑑賞して劇評を発表することにより、自らの作品において視覚芸術的な要素を持つ文学世界の構築を行ったことを立証した。

研究成果の概要(英文)：This study surveys the plays, operas, shows and other such works in the overall literary oeuvre of the nineteenth-century French writer Nerval to arrive at statements concerning the performing arts. In particular, it focuses on the criticism of theatre Nerval wrote for magazines and newspapers. The scripts of the performing arts and works referred and/or alluded to in Nerval's own works and the research literature on them are also examined. This study demonstrates that by appreciating the works of performing arts and writing criticism on them, Nerval constructed a literary world incorporating aspects of such arts works into his own oeuvre.

研究分野：19世紀フランス文学

キーワード：ネルヴァル 視覚芸術 演劇 オペラ 見世物 バレエ カゾット ロッシーニ

1. 研究開始当初の背景

(1) ネルヴァルが作品内で言及している著作の図版及び絵画の検証作業を行った。具体的にはフランチェスコ・コロナ『ヒュブネロトマキア・ポリフィリ』、アタナシウス・キルヒャー『地下世界』、クール・ド・ジュブラン『原始世界』、アリオスト『狂えるオランダ』を検討した。

(2) ネルヴァルと画家たちの交流関係を検討した。例えば『演劇界』誌の挿絵を担当したセレスタン・ナントウイユ、青年時代から長期間にわたって親交があったカミーユ・ロジェである。

(3) 以上の研究を続けていく過程において、ネルヴァルは参考にした書籍の本文だけではなく、掲載されている図版から大きな影響を受けたことを確認した。また画家たちとの交流により、彼の文学世界はより豊かなものになった。この確認の上にたち、視覚芸術の中でとりわけ演劇、オペラ、見世物がネルヴァルに与えた影響に研究範囲を広げる考えを持つに至った。

2. 研究の目的

(1) ネルヴァルの全文学作品において演劇、オペラ、見世物のような視覚芸術がどのように描かれているのかを検証する。次にネルヴァルが言及した視覚芸術の作品の台本及び19世紀前半の視覚芸術に関する書籍を検証する。

(2) ネルヴァルが視覚芸術を見て、劇評を執筆しただけではなく、自らの文学作品の生成過程においてこの仕事が大きな役割を果たしたことを立証する。

3. 研究の方法

(1) ネルヴァルの全文学作品の中で演劇、オペラ、見世物のような視覚芸術に関する記述の洗い出し作業をプレイヤッド版第3巻と『ネルヴァル辞典』等を参考にして行った。

(2) ネルヴァルの作品の初版本、雑誌、新聞の電子テキストをフランス国立図書館電子テキストサイト Gallica 等からダウンロードした。可能な場合は書籍を入手した。特にネルヴァルが職業として執筆した劇評に注目した。『アルチスト』誌、『音楽フランス』誌、『演劇界』誌、『プレス』紙、『パリ評論』誌、『両世界評論』誌、『シルフィッド』誌等の電子テキストを入手した。これらの中でネルヴァルにとって重要な発表の場であった『アルチスト』誌と『プレス』紙に特に注目するようにした。

(3) 19世紀前半の演劇、オペラ、見世物に関する著作の分析を行った。これらの著作の分析をとおして、19世紀前半の視覚芸術の状況

を把握した。

(4) ネルヴァルが劇評の対象にした演劇、オペラ、見世物の台本の電子テキスト、上演された劇場、舞台装置、俳優が着用した衣装の版画の電子版の分析を行った。

(5) ネルヴァルが劇評の対象とした演劇、オペラ、見世物だけではなく、劇評の中で比較対照として言及した諸作品にも注目して分析を行った。これらの諸作品がネルヴァルの文学作品生成過程において重要な役割を果たしたことが判明した。

4. 研究成果

(1) ネルヴァルがイタリアの作家アリオストの『解放されたエルサレム』から受けた影響を考察した。まずネルヴァルの作品における『解放されたエルサレム』に関する記述の分析を行った。その結果、ネルヴァルの想像力の中で『解放されたエルサレム』、ヴォルテールの『ラ・アンリアッド』、フージュレ・ド・モンブロン『変装したラ・アンリアッド』が深く絡み合っていることを立証した。研究成果を本務校の紀要に発表した。

(2) ネルヴァルの友人で画家のテオドル・シャセリオーの研究書を入手した。ネルヴァルの『ボヘミアの小さな城』の記述とシャセリオーの絵を照合し、その関係を考察した。パリのルーヴル美術館でシャセリオーの絵画を鑑賞して考察を深めた。

(3) ネルヴァルは『東方紀行』において『ヒュブネロトマキア・ポリフィリ』(『ポリフィルの夢』)を言及している。この書籍はもと1499年にヴェネツィアで出版された。本作品はイタリア語とラテン語で書かれているとされているが、解読が非常に困難な作品である。フランス語訳は1546年に出版された。近年電子テキスト版の入手が容易になり、またリプリント版の購入も可能になった。そこでできる限り本作品の原書及びフランス語訳、英語訳を入手して、分析を行った。ネルヴァルは作品内で原典を言及しているが、参考にしたのはフランス語訳であるという結論に達した。ネルヴァルはフランス語訳の文章と掲載されている図版が一致しないことに気づいたはずである。そこで『東方紀行』の中の『ポリフィルの夢』に関する記述の一部がかなり曖昧なものになってしまっている。またネルヴァルの創作も付け加えられている。この研究成果を第19回国際比較文学会で発表した後に、論文集編集委員会に論文を送付した。その結果2013年にソウル・中央大学校出版局から発行された『比較文学の境界を拡大して』第1巻『国境を越えた伝統への回帰』に「ジェラルム・ド・ネルヴァルにおける『ポリフィルの夢』」と題したフ

ランス語論文が掲載された。

(4) ネルヴァルが台本作家スクリーブの作品から受けた影響について考察を行った。スクリーブの膨大な作品の中で、作曲家マイヤベーアとアレヴィに絞って調査を行った。具体的には『悪魔のロベール』『ユグノー教徒』『ユダヤの女』の分析を行った。幸いにもこの三作品は現在でも映像を見てその内容を確認することが可能である。その研究成果を本務校の紀要に発表した。

(5) ネルヴァルが劇評で言及した劇場の中で、パリのパレ・ロワイヤル地区、ボンヌ＝ヌヴェル通り周辺、リュクサンブール地区を中心に、12カ所の劇場、劇場跡の現地調査を行った。今でも劇場として使っている建物、劇場以外の用途で使っている建物。劇場そのものが消滅したものがどれであるかを明確にすることができた。ネルヴァルが劇評を執筆した当時の劇場の場所を確認できたことは大きな収穫であった。

(6) ネルヴァルはジャック・カゾットの『悪魔の恋』(1772)をバレエ＝パントマイム化した作品の劇評を2回発表した。最初は『プレス』紙1840年8月3日号である。この記事はバレエ＝パントマイムが上演される前に掲載された。ネルヴァルはこのバレエ＝パントマイムがカゾットの『悪魔の恋』の影響を受けた作品になると想像し、バレエ＝パントマイムの粗筋や登場人物を知らなかった。バレエ＝パントマイムは1840年9月23日に当時のオペラ座で上演された。ネルヴァルは劇評を『プレス』紙1840年10月5日号に掲載した。まずこの劇評を詳細に分析した。ネルヴァルのその後の作品に出てくるテーマと深く関わる箇所が多いことが判明した。その違いについて考察を行った。次にバレエ＝パントマイム『悪魔の恋』のプログラム、台本を検討した。ネルヴァルの劇評と『悪魔の恋』との間に違いがあることが判明した。なお後にネルヴァルはカゾットの『悪魔の恋』(1845年版)の序文を執筆している。この序文は現在でも高い評価を得ている。この研究は本務校の年報に発表した。

(7) オペラ『悪魔のロベール』はスクリーブとドゥラヴィーニュが台本を担当し、音楽はマイヤベーアが担当した。1831年に当時のパリのオペラ座で初めて上演された。ネルヴァルは『プレス』紙1838年5月21日号で『悪魔のロベール』について言及している。そして『東方紀行』(1851年)においてコンスタンチノーブルを描いた箇所『悪魔のロベール』について言及している。オペラ『悪魔のロベール』とネルヴァルの『東方紀行』の記述には大きな違いがある。ネルヴァルが訳したゲーテの詩「旅人」やゴーチエの作品『コンスタンチノーブル』が介在して、ネルヴァ

ルの『東方紀行』の記述に至ったという結論に達した。この研究の成果は本務校の紀要に発表した。

(8) ネルヴァルの劇評を精査すると、ロッシェニに関する劇評が多いことが判明した。その中でもネルヴァルの言及が最も多いのは『ギヨーム・テル』である。ネルヴァルが『ギヨーム・テル』の劇評を書くために参考にした台本の確定は困難であったが、4幕版と3幕版の電子テキストを入手して分析を行うことができた。ネルヴァルがギヨーム・テルに注目した理由を分析して、本務校の紀要に論文を発表した。

(9) (6)で述べたようにネルヴァルはカゾットの『悪魔の恋』(1772)の影響を受けただけではなく、その翻案作品であるバレエ＝パントマイム『悪魔の恋』から多大な影響を受けた。ネルヴァルはバレエ＝パントマイム『悪魔の恋』に関する劇評を『プレス』紙に二度掲載した。以前紀要に論文を発表した時には入手できなかったパリの書店で刊行されたバレエ＝パントマイムの台本(1840年版)の電子テキスト、舞台装置、衣装の電子版などを多数入手することができた。ネルヴァルはカゾットの『悪魔の恋』だけでなく、その翻案作品であるバレエ＝パントマイム『悪魔の恋』から大きな影響を受けて、後の文学作品執筆の際の重要なテーマを見つけることができた。この研究成果を2016年7月ウィーンで開催された第21回国際比較文学学会世界大会の個人発表部門で発表した。また学会の公式サイトへの予稿集に研究概要を発表した。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計6件)

- ① 間瀬玲子、ネルヴァルとロッシェニの『ギヨーム・テル』、筑紫女学園大学研究紀要、査読無、12号、2017、63-72
- ② Reiko MASE, L' influence des adaptations de Cazotte sur les œuvres de Nerval, 21th World Congress of the International Comparative Literature Association, Abstracts General Conference Sessions, 査読有、2016、60-61
<http://icla2016.univie.ac.at/programme/abstracts>
- ③ 間瀬玲子、ネルヴァルと『悪魔のロベール』、筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要、査読無、11号、2016、77-88
- ④ 間瀬玲子、ネルヴァルとバレエ＝パントマイム『悪魔の恋』、筑紫女学園大学・短期大学部人間文化研究所年報、査読無、

26号、2015、93-107

- ⑤ 間瀬玲子、ジェラルド・ド・ネルヴァルとウジェーヌ・スクリーブ、筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要、査読無、10号、2015、57-68
- ⑥ 間瀬玲子、ネルヴァルとタツの『解放されたエルサレム』、筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要、査読無、9号、2014、83-94

[学会発表] (計1件)

- ① Reiko MASE, L' influence des adaptations de Cazotte sur les œuvres de Nerval, 21th World Congress of the International Comparative Literature Association (ICLA 2016), 22 July 2016, University of Vienna, Vienna (Austria)

[図書] (計1件)

- ① Sung-Won CHO, Reiko MASE 他、Chung-Ang University Press、Expanding the Frontiers of Comparative Literature, vol. I, Return to the Transnational Tradition, 2013, 417 (360-366)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

researchmap (国立研究開発法人科学技術振興機構知識基盤情報部)
<http://researchmap.jp/read0176874/>

筑紫女学園大学ホームページ 教員情報
<http://www.chikushi-u.ac.jp/about/scholarship/detail.php?id=63>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

間瀬 玲子 (MASE, Reiko)
筑紫女学園大学・文学部・教授
研究者番号：30219357

研究分担者、連携研究者、研究協力者はなし